

ヨハネの黙示録 3 章 1-6 節

七つの教会への七つの手紙(5)ーサルデス

3:1 また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。『神の七つの御霊、および七つの星を持つ方がこう言われる。「わたしは、あなたの行いを知っている。あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。

3:2 目をさましなさい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行いが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。

3:3 だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出しなさい。それを堅く守り、また悔い改めなさい。もし、目をさまさなければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。

3:4 しかし、サルデスには、その衣を汚さなかった者が幾人かいる。彼らは白い衣を着て、わたしとともに歩む。彼らはそれにふさわしい者だからである。

3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。**3:6** 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』』

はじめに

Rev.黙示録3:6「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」というように、今日の手紙にも、最後に他の手紙と同じ事が書いてあります。御霊が諸教会に言われる事は、一つの教会だけの為ではなくて聞く耳のある全ての人の為なのです。聞く耳を持っているという意味については聖書で確認出来ます。

サムエル第一**3:10**「そのうちに主が来られ、そばに立って、これまでと同じように、「サムエル。サムエル。」と呼ばれた。サムエルは、「お話してください。しもべは聞いております。」

今日、私達もイエス様に対してへりくだってしもべとして心からその祈りをすれば、この手紙にある神の不変の真理を教えられます。イエス様は天から、この七つの手紙を自分の全ての信者の為に送って下さいました。

1. イエス様の自己紹介。(3:1)

黙示録 **3:1**「また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。『神の七つの御霊、および七つの星を持つ方がこう言われる。「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。」

今まで見て来たように、七つの星は七つの教会の御使い達なので説明する必要はありませんが、七つの御霊を説明する必要があるでしょう。聖書の他の箇所にも御霊は一つと書いてありますから、七つの違う霊という意味ではありません。聖書全体の中で、しかも、特に黙示録には七という数字が完全さを意味するので、七つの御霊は聖霊が完全な神様の聖霊、と言う解釈が出来ます。つまり、父なる神と御子なる神と御霊なる神なので、キリスト教の基本的な教え通り三位一体の神様が現わされています。

黙示録**1:4-6**「ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。常にいまし、昔いまし、後に来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、

1:5 また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち、

1:6 また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。キリストに栄光と力が、とこしえにあるように。アーメン。」

この箇所では、七つの御霊は神の御座の前にあると書いてあるし、3:1にあるイエス様が七つの御霊を持っておられるということと合わせて解釈したら、イエス様が栄光を受けて神の御座に座り、その御座から聖霊を遣わす事が出来ると分かります。

ヨハネ7:38-39. 「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。

7:39 これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったため、御霊はまだ注がれていなかったからである。」

しかし、黙示録ではイエス様は既に栄光を受けて御座におられるので、イエス様が聖霊を遣わす立場になっておられるのです。

ヨハネ16:7 「しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところへ遣わします。」

イエス様は人間として地上におられる間に、同時に全ての信者と一緒に居ることは出来ませんでした。今は聖霊によって世界中の全ての信者と共にいるだけではなくて、心の中に住む事が出来るので、私が去って行く事はあなたの方にとって益なのです、と言われました。イエス様は今まで見て来た通り、各教会に対して彼らの必要に応じてご自分を現わして下さっています。サルデスの教会の状態を見ると、一番必要なのは生ける水である聖霊によって改めて生かされることです。「あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。」 人間の目から見て生きていても、実はイエス様の目から見て死んでいると言われています。この教会は形だけで形式的に動いて、名目だけの教会なのです。世の中にそのような教会とそのようなクリスチャンは数え切れないほどいます。

マタイ7:22-23 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありませんか。』

7:23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れてけ。』

大勢の偽物がいるから、本物の生きている信者になる為に聖霊が一番大切だという事が書いてあります。キリストの霊を持たない人はキリストの者ではないと聖書に書いてある通りです。

2. イエス様の叱りと注意の言葉(3:2-3)

黙示録3:2-3 「目をさませなさい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行ないが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。

3:3 だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出さなさい。それを堅く守り、また悔い改めなさい。もし、目をさませなければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。」

今まで見て来た四つの手紙とは違い、先に励ましの言葉ではなくて、先に注意の言葉が述べられています。子どもの命が危ない時に親がするように、先ずは命が助かるように、「死にかけている他の人達を力づけなさい」と言っています。ここでイエス様は、彼らが救われた事のない偽物の信者ではなくて救われた事があるのに成長していないという意味で、全うされていないと言う表現を使っています。もちろん、完璧な人はどこにもいないから、まだ完成されていないから、叱ってはいけません。使徒パウロでも、自分が完成されていないと認めていました。2週間前に、ペルガモの教会の手紙を見た時にも見ましたが、もう一度見てみましょう。

ピリピ人3:12 「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕えようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕えてくださったのです。」

イエス様の信者は常に成長し、前に向かって走り続けなければ、今までの経験だけで満足してしまうと、習慣として伝統を守る形式だけの宗教になってしまいます。サルデスの信者の大半はこんな状態だったため、イエス様は厳しい言葉で注意していました。

黙示録3:3 「だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出さない。それを堅く守り、また悔い改めなさい。」

悔い改めなければならないのは形だけの見せかけの宗教になってしまって、救われた時のようにイエス様を第一に求めていなくなってしまうことです。

世界中の宗教はほとんど、伝統に基づいた習慣として行われて神様の不変の真理と全く関係のないものです。残念ながら、キリスト教の一部もそれと同じです。しかも、少しだけではなくて大勢の人はそうするとイエス様は言っています。イエス様が当時の宗教の指導者達に言った言葉は大変厳しいものでした。「あなた方は自分の伝統によって神の言葉を無効にしています。」という凄惨な発言です。神様の言葉を無効に出来る唯一の物は宗教的な伝統です。そこには本物の信仰がないから、御言葉の真理の最大の敵は宗教的な伝統です。ユダヤ教の伝統は最高の先祖から与えられて、アブラハム、モーセ、ダビデ、多くの預言者達などから来たのに、神様の真理であるイエス様の最大の敵となりイエス様を殺してしまいました。はっきり言いますが、少なくとも、キリスト教の半分かそれ以上に同じように聖書の真理に従うよりも、伝統だけを守っています。それで、イエス様は「大勢の人は私にこう言う、『主よ主よ、あなたの名前で．．．しました。』」と言われたのです。明確にこれはユダヤ教でもない、イスラム教でもない、仏教でもない、形式だけの伝統的な偽物のキリスト教です。イエス様の名前で色々行った、と言っているからです。皆さん、自分で聖書を読んで神様の真理を第一に求めて、教会の指導者の教える事が聖書と一致しているかどうか判断するのが大切です。それが一致していないと思ったら、従う義務はないし、従わない方がいいです。もっとはっきり言うとイエス様と聖書だけを中心にしていない教会には行かない方がいいです。17世紀に起きた宗教改革の中心にあった言葉は

”Sola Scriptura”つまり聖書だけだ、と言う意味です。教会はそれぐらい聖書から離れて、聖書に書いていない事を教理として教えていたからです。当時、「人の教えを戒めとして教えています。」とイエス様が言った通りでした。

イエス様の注意は続いて「目を覚まさない。」「目を覚まさないければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。」と言われました。イエス様による神の真理を第一に求めていない人は、神の御心や神様の導きに対して鈍感な心の状態で、何も悟る事が出来ません。それで、イエス様は盗人に襲われるようになるという言葉を使っているのです。わざとこっそりと静かに来られるという意味ではなくて、霊的に鈍感な状態だから、気づかない内に盗人に襲われてしまうようになってしまいます。

3. イエス様の励ましの言葉。(3:4)

黙示録3:4 「しかし、サルデスには、その衣を汚さなかった者が幾人かいる。彼らは白い衣を着て、わたしとともに歩む。彼らはそれにふさわしい者だからである。」

こんなに形式だけの死んだ教会の中でも、わずかですが、イエス様との交わりを保っている信者がいます。イエス様はその信者達に励ましの言葉を送って更に信仰を強めています。

マタイ12:20 「彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともない、公義を勝利に導くまでは。」

世界的に大規模に刑務所伝道をしている団体で、プリズン・フェロウシップと言う団体があります。このマタイの聖書箇所は、彼らの伝道の働きの中心になっている御言葉です。どんなに傷ついて、弱っている消されそうな人の信仰も、イエス様は最後までそれを大事にして守って強め、育て上げる素晴らしい救い主です。どんなに難しい環境の中でも、イエス様を第一にするなら、イエス様との交わりを与えられます。しかも、イエス様との個人的な交わりがあれば、全ての環境や困難に打ち勝つ事が出来ます。イエス様との交わりによる喜びと平安を必ず経験出来ます。なぜなら、イエス様の与える喜びと平安はこの世による物ではなくて、そしてこの世の事情によって影響されないものだからです。

ヨハネ14:27「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」

この世が与えるのとは違います、とはっきり言っています。イエス様の平安は全ての罪が赦されて聖められている確実な証拠です。

ピリピ人4:6「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」

4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

英語ではsurpasses all understandingと言いますが、直訳は「全ての理解を超える」という意味です。つまり、困難の中で平安は何もないはずなのに、感謝と祈りをすれば、心の深い所に平安が沸いて来て、心と思いを精神的に守ってくれるのです。

イエス様とその交わりを持つ為にふさわしいと言われている人達は「その衣を汚さなかった者」とイエス様に言われています。その方法についてヨハネは別の手紙で書きました。

ヨハネ第一1:7「しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」

「神様の光の中を歩んでいるなら」、これが唯一の聖められる方法で、そして、本当の交わりの中で「御子イエスの血はすべての罪から私達をきよめ続け」ます。原語の動詞は進行形になっています。そしてもちろん、神の光は神の御言葉から与えられるのでイエス様は次のように祈りました。

ヨハネ17:17「真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。」 3:3節で言われたことと同じですが、最初に聞いて受け入れたようにイエス様の真理を第一に求めてそれに従いなさいと言われています。

まとめ.イエス様の約束の言葉(3:5)

黙示録3:5「勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。」勝利を得る者とは先週の箇所、2:26にもあったように、「最後まで私のわざ守る人」、最後まで信じ続ける人です。七つの手紙の全ての約束はこうして書いてあります。勝利を得る者に与えられているのです。私達は皆この点で同意していると思います。でも、同じイエス様の信者の中で誰が最後まで信じ続ける人になるかについて意見が分かれています。つまり、本当のイエス様の信者になったら、必ず最後まで信じ続けるに決まっていると解釈している人と、そうではなくて、途中で信仰から離れてしまう人もいると解釈している人です。「それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい」とローマ人14:5に書いてあるように相手に自分の解釈を強制的に押し付けるのを止めて認め合いなさいと言われています。平和の絆で聖霊の一致を熱心に保ちなさいと言う御言葉に従うためにこれがとても大切です。

今日のイエス様のサルデスの教会に与えられた注意の言葉から解釈するなら、「もし、目をさまさなければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。」という言葉、イエス様は人が救われる為に警告として沢山の箇所です使っていますが、今日の箇所では注意の言葉として明確に自分の信者に対して使っています。「悔い改めて最初に聞いた時と同じように真理を第一に求めなさい。約束を最後まで信じ続けるなら、私はあなたに永遠の白い衣を着せて私と永遠の交わりを与え、そしてあなたの名前を命の書から、決して消しません。」ペルガモ教会に送った約束も合わせて「私は彼に白い石を与える。その石には、それを受け取る者のほかにだれも知らない、新しい名が書かれている。」とあるように。

マタイ25:1「そこで、天の御国は、たとえば言えば、それぞれがともしびを持って、花婿を出迎える十人の娘のようです。」

この例え話を全部読む時間はありませんが、結論はイエス様がいつでも、準備が出来ているようにしなさいと言っているということです。その準備は灯の油、つまりイエス様が与える聖霊によって信仰の灯の火が燃え続けているように準備していなさいと言われているのです。